

成果指標				
成果指標	公害問題発生件数(件)			
指標設定の考え方	環境破壊を未然に防止するには、まず公害問題を発生させないことが重要と考えて設定。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	0	0	0	0
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	騒音・振動・悪臭対策行政については、県から市に規制地域指定等の権限が移譲されたところであるため、環境審議会において審議して決定する手順を整えなければならない。そこで専門分野の有識者を委員として招聘する準備として、審議会の設置条例の改正を行った。今後は、再構成した審議会をいち早く立ち上げ、権限委譲によって生じた新たな検討事項についても協議する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	騒音・振動・悪臭対策行政については、県から市に規制地域指定等の権限委譲によるものであるため、実際の行動に即した手順や体制を整備しなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題